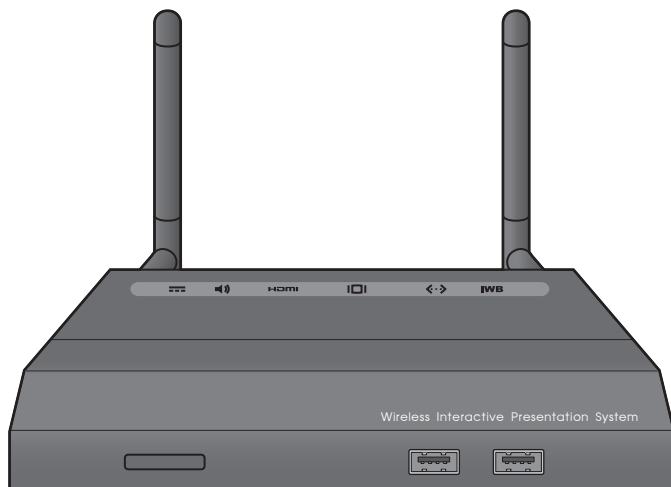


PRINCETON

ワイヤレス インタラクティブプレゼンテーションシステム
TruCast 2 TWP-1500

PDFマニュアル



目次

本製品で使用する電波について	6
2.4GHz 帯使用の無線機器について	6
はじめに	7
付属品の確認	8
USB トークンについて	8
主な機能	9
動作環境	10
ソフトウェア/アプリについて	11
各部の名称と主な機能	12
使用するまでの主な流れ	14
レシーバーと映像機器の準備	14
USB マウス/USB キーボードを接続する場合	15
スピーカーを接続する場合	16
タッチスクリーンや電子黒板機器と接続する場合	16
壁面に設置する場合	17
スタンバイ画面について	18
ネットワークの準備 (レシーバーに無線 LAN 接続する)	21
レシーバーを既存のネットワークに導入する場合 (有線 LAN 接続を使用する)	25
レシーバーを既存のネットワークに導入する場合 (無線 LAN 接続—Ap Client 機能—を使用する)	26
ソフトウェア/アプリの準備	27
付属の USB トークンからソフトウェアを起動する (Windows のみ)	27
付属の USB トークンからソフトウェアをインストールする (Windows の場合)	28
付属の USB トークンからソフトウェアをインストールする (Mac の場合)	29
レシーバーの管理画面からソフトウェアをダウンロードする	31
スマートフォン/タブレットの専用アプリについて	32
パソコンの画面を投影する (WIPS2 を起動する)	33
操作パネル	33
画面を 4 分割表示する	34
ホワイトボード機能	37
主な機能	37
描画/プレゼンテーション機能	38
主な機能	39
スマートフォンやタブレットを使用してパソコンを操作する (Mirrorop Receiver / SidePad Receiver)	41
操作方法	42
スマートフォンやタブレットに保存されているデータを投影する (WiFi-Doc)	43
操作方法	43
ワードやパワーポイントなどのファイルを投影する (ドキュメント表示機能)	45
写真を表示する (写真表示機能)	46
スナップショット機能 (Shot & Show)	47
WebSlides の配信と受信方法	49
パソコンから WebSlides へ画像を配信する	49
WiFi-Doc を使用してスマートフォンやタブレットの画面を配信する	51
レシーバーの設定を変更する	52
操作パネルのメニュー	52
タッチスクリーンや電子黒板機器を使用する場合 (IWB USB を有効にする)	55
Web 管理画面	57
管理画面を表示する	57
管理画面のメニュー	58
システム管理者画面について	60
システムの状態	60
デバイス設定	60
ネットワーク設定	61
待機画面設定 (スタンバイ画面設定)	62
WebSlides 設定	63

パスワード変更	64
初期状態に戻す	64
ファームウェア更新	64
USB トークンを作成する (Windows のみ)	65
USB トークンの作成方法	66
工場出荷時の状態に戻す	67




本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用の際には、必ず以下の記載事項をお守りください。

- ご使用の前に、必ず本書をよくお読みいただき、内容をご理解いただいた上でご使用ください。
- 別紙で追加情報が同梱されている時は、必ず参照してください。
- 本製品を、本書に記載されている以外の用途に使用しないでください。




安全上のご注意

本製品のご使用に際しては、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、必要な時すぐに参照できるように、本書を大切に保管しておいてください。

本書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、本文をお読みください。

 危険	この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容が記載されています。
 警告	この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負うなど人身事故の原因となる可能性がある内容が記載されています。
 注意	この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性がある内容が記載されています。

図記号の意味

 注意を促す記号（記号の中や近くに警告内容が記載されています）
 行為を禁止する記号（記号の中や近くに禁止内容が記載されています）
 行為を指示する記号（記号の近くに指示内容が記載されています）

⚠ 危険

- ⊘ お子さまの手の届くところに本製品を放置しないでください。誤ってUSB トークンを口に含んだり、コードが首に絡まるなどした場合、感電や窒息など生命に危険を及ぼす恐れがあります。
- ⊘ 人命に直接かかわる医療機器や精密機器などへの使用や、人身の安全に関与する機器、重要なコンピューターシステムなど重大な影響を及ぼす可能性のある機器、高い信頼性が必要とされる機器には使用しないでください。使用環境や使用状況により誤作動を起こす場合があります。

⚠ 警告

- ⊘ 発煙、焦げ臭い匂いの発生などの異常状態のまま使用を続けると、感電、火災の原因になります。ただちに本体に接続しているケーブルや機器をすべて取り外してください。煙が出なくなってから販売店に修理を依頼してください。
- ⊘ 内部に水などの液体が入った場合、異物が入った場合は、まず最初に本体に接続しているケーブルや機器をすべて取り外して販売店にご連絡ください。そのまま使用を続けると、感電、火災の原因になります。
- ⊘ 浴室等、湿気の多い場所では使用しないでください。火災、感電の原因になります。
- ⊘ 本製品に水を入れたり、濡らしたりしないでください。火災、感電の原因になります。海岸や水辺での使用、雨天、降雪中の使用には特にご注意ください。
- ⊘ 本製品を落とす、ものをぶつけるなどの衝撃が加わった場合や本体外装を破損した場合は、本体に接続しているケーブルや機器をすべて取り外して販売店にご連絡ください。そのまま使用を続けると、感電、火災の原因になります。
- ⊘ 本製品の上に、花瓶、コップ、植木鉢、化粧品や薬品などの入った容器、アクセサリなどの小さな金属物等を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因になります。
- ⊘ 本製品の裏ぶた、カバー、本体外装は絶対にはずさないでください。内部には高電圧の箇所があり、感電の原因になります。
- ⊘ 本製品を分解、改造しないでください。火災、感電、破損の原因になります。
- ⊘ 熱器具の近くや直射日光のあたるところには設置しないでください。火災の原因になります。

⚠ 注意

- ⊘ 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湿気が当たる場所には置かないでください。火災、感電の原因になることがあります。
- ⊘ 窓を閉め切った自動車の中や、直射日光が当たるところなど異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。本体外装や部品に悪影響を与え、火災、感電の原因になることがあります。
- ⊘ ぐらついた台の上や、傾いたところなど不安定な場所におかないでください。
- ❗ 高いところに設置する場合は、不意な衝撃があっても落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、怪我や事故の原因になります。また、高いところへの設置作業は、足元が不安定になりますので、十分注意してください。
- ❗ 万が一の事故防止のため、すぐにケーブル類や接続している機器を取り外せるようにしてください。
- ❗ 長期間本製品を使用しない場合は、安全のために必ずケーブル類や接続している機器を抜いてください。
- ❗ お手入れの際は、安全のためケーブル類や接続している機器を抜いてください。
- ⊘ 濡れた手でケーブル類や接続する機器を抜き差ししないでください。感電の原因になることがあります。
- ❗ ケーブル類を抜くときは、ケーブルを引っ張らず必ずコネクター部をもって抜いてください。ケーブルが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。
- ❗ お子様がむやみに手を触れないようご注意ください。怪我の原因になることがあります。

本製品で使用する電波について

本製品は 2.4GHz 帯域の電波を使用しています。本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下の注意をご確認ください。

以下の近くでは使用しないでください。

- 電子レンジ / ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器など
- 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
- 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
- IEEE802.11g/b/n 無線 LAN 機器

上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。

2.4GHz 帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）については、弊社カスタマーサポートへお問い合わせください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、弊社カスタマーサポートへお問い合わせください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。

ご使用の際には、必ず以下の記載事項をお守りください。

- ご使用の前に、必ず本書をよくお読みいただき、内容をご理解いただいた上でご使用ください。
- 別紙で追加情報が同梱されているときは、必ず参照してください。
- 本書は保証書と一緒に、大切に保管してください。

付属品の確認

本製品のパッケージの内容は、次のとおりです。お買い上げのパッケージに次のものが同梱されていない場合は、販売店までご連絡ください。



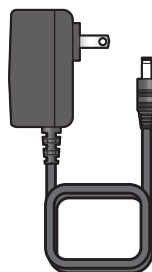
レシーバー本体



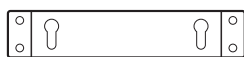
USBトークン



アンテナ×2



ACアダプター



壁掛け用スレート



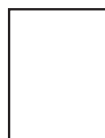
スレート固定用ネジ×4



本体用ネジ×2
ワッシャー×2



ユーザースガイド
(別紙)



活用ガイド
(別紙)

USB トークンについて

付属の USB トークンには WIPS2 起動ソフトウェアの他に以下のソフトウェアが保存されています。

- Windows Installer (TWP-1500 Windows Installer)
- MAC Installer (TWP-1500 Mac Installer)
- VAC Driver (For Windows XP Audio Projection)
- VDD Driver (For Windows XP/Vista Virtual Extended Screen)
- USBolP Driver (For USB IWB Bridge)
- Utility
 - ・ PtG Converter (For MobiShow PtG function)
 - ・ SNMP Manager (For SNMP Management)

主な機能

- **PC レスで書き込み可能**

投影しているスクリーン上に書き込みを行うことができます。
バーチャル黒板・ホワイトボードを PC レスで使用することができます。

- **PTB-W1 の USB ワイヤレスアダプタを USB ポートに差し込むだけで使用可能！**

PTB-W1 を使用すれば、手書き入力がさらにスムーズ快適に行えるようになります。

- **タッチスクリーン・電子黒板で書き込み可能**

本機能向けに特殊な USB ポートを搭載。タッチスクリーンや電子黒板を本製品に接続して、ワイヤレスでパソコンと連携することができます。

- **プラグ アンド ショー USB トークン付属**

Windows パソコンでは WIPS2 のソフトウェアを USB トークンから直接起動可能。
(インストール不要)

USB フラッシュメモリーでトークンの作成※も可能。

※本製品同梱の USB トークンには WIPS2 起動ソフトウェアの他、各種データが保存されており、本機能で作成される USB トークンには WIPS2 起動ソフトウェアのみ保存されます。

- **WiFi-Doc — iOS/Android 用 App**

iOS や Android デバイスで高画質のプレゼンテーションが可能。

(Word, Excel, PPT, PDF, 画像, スクリーンショット)

4 分割投影や WebSlides 経由でプレゼンテーションの配信も可能。

- **SidePad — サイドマウス&キーパッド**

プレゼンテーションに使用している PC をワイヤレスでタブレットやスマートフォンでコントロール可能。コンピューターから離れて、自由にプレゼンテーションを行うことができます。

- **WebSlides — スライドブロードキャスト**

プレゼンテーション画像をネットワーク上のパソコンやスマートフォン／タブレットに配信することができます。

- **4 分割投影**

画面を簡単に 4 分割投影することができます。

動作環境

本製品をご使用になる際、以下の環境および機器が必要です。

映像出力機器	HDMI または VGA 入力を搭載した映像機器 (テレビ・PC モニター・プロジェクターなど)
--------	---

対応解像度

入力解像度	SVGA (800 × 600) / XGA (1024×768) / SXGA (1280×1024) / WXGA (1280 × 768) / WSXGA (1440×900、1600×1024) / UXGA (1600 × 1200) WUXGA (1920×1200) / QXGA (2048 × 1536) / その他
出力解像度	■ HDMI 出力 1280 × 720 (720p)、1920 × 1080 (1080i / 1080p) ■ VGA 出力 SVGA (800 × 600) / XGA (1024×768) / WXGA (1280× 768) / WXGA+ (1280 × 800) / 1360 × 768 / 1440×900 / 1600× 1200

対応 OS

Windows 8.1 / 8 / 7 / Vista

Mac OS X 10.7 ~ 10.9

Android 2.2 以降 (MobiShow / WiFi-DOC / SidePad Receiver)

iOS 4.2.1 以降 (MobiShow / WiFi-DOC / SidePad Receiver)

対応ペンタブレット

PTB-W1



- ・工場出荷時のバッテリーは完全充電されていません。初めてお使いになる時は必ず充電してください。
- ・充電は必ず付属の USB ケーブルを使用してください。
- ・ケーブルを接続する際は、コネクターの向きにご確認ください。
- ・充電機保護のため、長時間充電をしたまま放置しないでください。

ソフトウェア／アプリについて

本製品のご利用には、下記のソフトウェアまたはアプリが必要です。
ご利用の環境および端末に応じて準備してください。

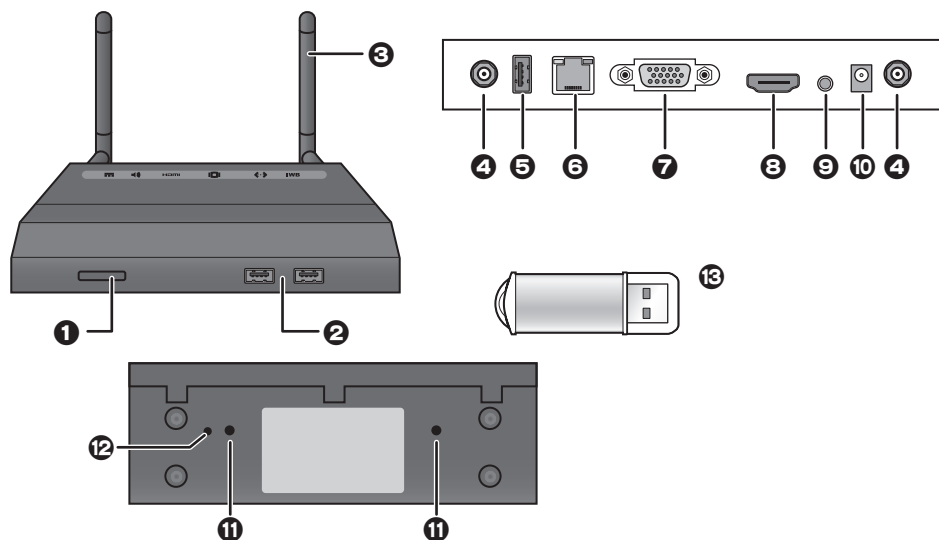
■パソコン用ソフトウェア

ソフトウェア／アプリ	入手先	参照先	用途
WIPS2	USB トークンから起動。 (Windows パソコンのみ)	P.27	パソコン映像の投影および投影設定。 レシーバーの設定。
	USB トークンからインストール。	P.28 P.29	
	ブラウザを使用してレシーバーにアクセスして管理画面からダウンロードしてインストール。	P.31	

■スマートフォン／タブレット用アプリ

ソフトウェア／アプリ	入手先	参照先	用途
 Wifi-doc (Bundle Version)	Apple store または Google play からインストール。	P.32	スマートフォンやタブレットに保存されているドキュメントや写真、スクリーンショットをレシーバーに送信して映像機器に投影することができます。
 Mirrorop Receiver	Apple store または Google play からインストール。		
 SidePad Receiver	Apple store または Google play からインストール。		

各部の名称と主な機能

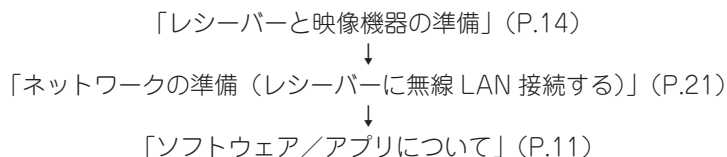


① 電源ボタン(動作LED)	電源のオン/オフ グリーン点灯：電源オン レッド点灯：システム起動中 消灯：電源オフ
② USBポート	USB マウス/キーボード、 ワイヤレスタブレットの USB ワイヤレスアダプタ等を 接続します。
③ 無線用アンテナ	レシーバーに取り付けます。
④ アンテナ取り付け口	無線用アンテナを取り付けます。
⑤ USBポート	IWB 対応の USB ポートです。タッチパネルディスプレ イの USB ケーブルを接続してタッチパネルディスプレ イを使用することができます。
⑥ LANポート	LAN ケーブルを接続します。
⑦ VGAポート	VGA ケーブルを接続します。
⑧ HDMIポート	HDMI ケーブルを接続します。
⑨ 音声入力端子	3.5mm ステレオミニプラグを接続します。
⑩ 電源コネクタ	AC アダプター接続します。

⑪ 壁掛け用ネジ穴	壁面設置の際に使用します。 (P.17)
⑫ リセットボタン	本体の設定を工場出荷時の状態に戻します。 (P.67)
⑬ USBトークン	パソコンに接続してパソコン用ソフトウェア「WIPS2」の起動やインストールを行います。

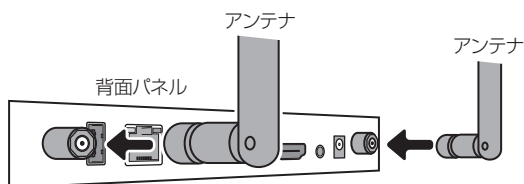
使用するまでの主な流れ

本製品を使用するには、パソコンやスマートフォン／タブレットでネットワークの設定や専用ソフトウェア、専用アプリの準備が必要です。



レシーバーと映像機器の準備

- 1** レシーバーにアンテナを取り付けます。



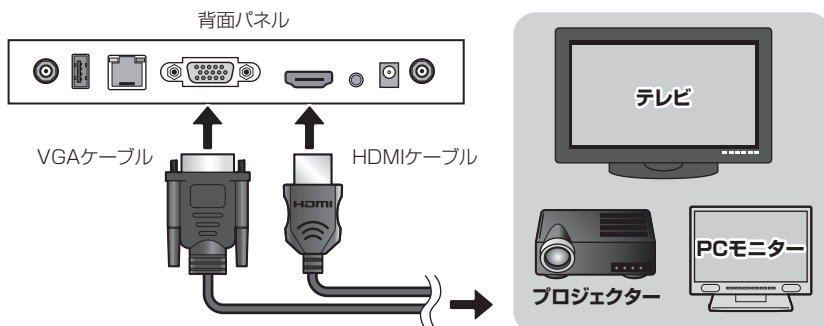
- 2** レシーバーと映像表示側の機器 (テレビ／パソコンモニター／プロジェクターなど) を VGA または HDMI ケーブルで接続します。

■ 必ずご確認ください ■

レシーバーの映像出力の初期設定は XGA (1024×768) です。

投影先の映像機器が XGA の表示に対応しているか確認してください。

レシーバーの解像度変更は、Windows / Mac OS 用のアプリケーション (WIPS2) のメニューにある「管理画面」(P.57) から設定できます。



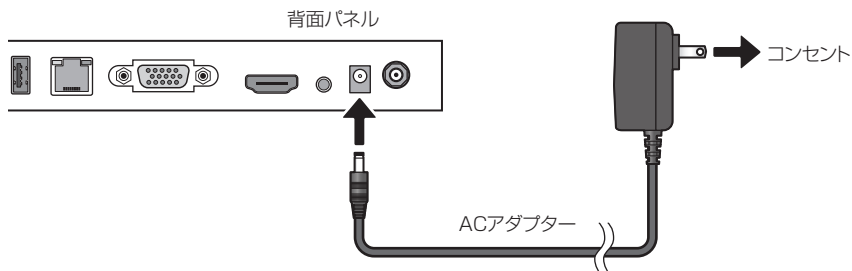


タッチパネルディスプレイを接続する

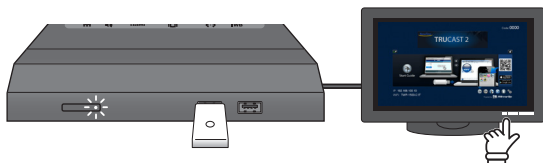
背面の IWB 対応 USB ポートにタッチパネルディスプレイの USB ケーブルを接続することで、タッチパネルディスプレイを使用することができます。UST (universal single touch) 対応でシングルタッチはドライバーのインストールが不要です。

USB トークンからドライバーをインストールすることで、マルチタッチにも対応可能です。(P.55 参照)

- 3** レシーバーに AC アダプターを接続するとレシーバーの電源がオンになります。

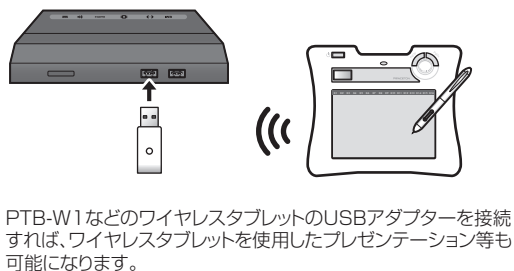
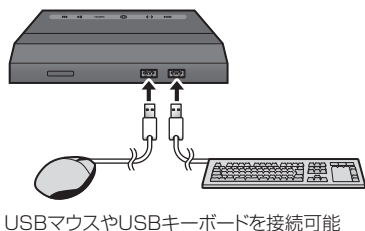


- 4** 映像機器の電源をオンにすると、スタンバイ画面が表示されます。



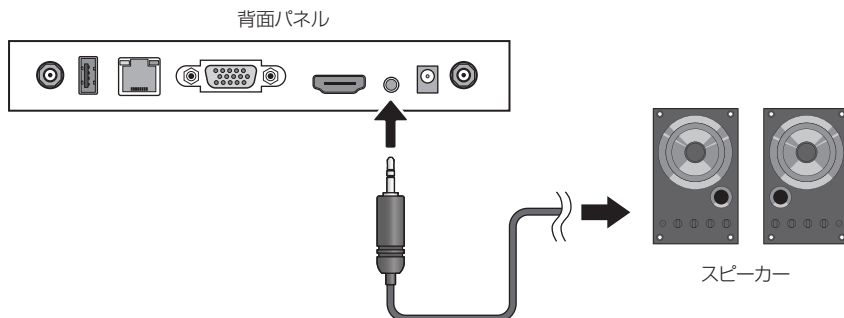
USB マウス / USB キーボードを接続する場合

レシーバー正面の USB ポートに、USB マウスやキーボードを接続して「ホワイトボード機能」や「プレゼンテーション機能」を使用することも可能です。



スピーカーを接続する場合

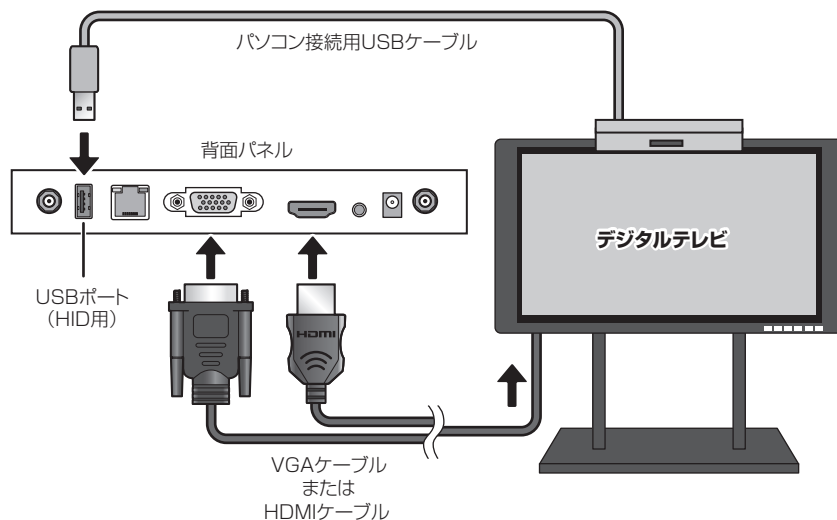
3.5mm ステレオミニジャックにスピーカーの音声ケーブルを接続してください。

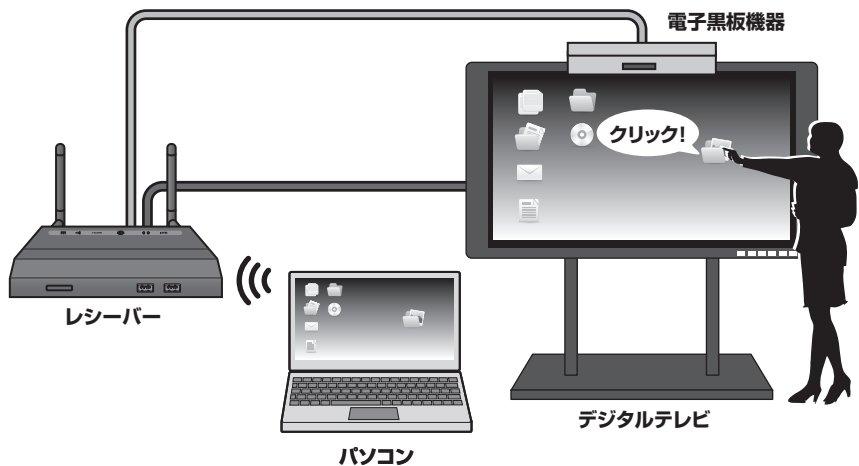


タッチスクリーンや電子黒板機器と接続する場合

レシーバー背面の USB ポートに、タッチスクリーンや電子黒板機器のパソコン接続用 USB ケーブルを接続し、レシーバーとディスプレイまたはプロジェクターなどと VGA または HDMI ケーブルで接続します。

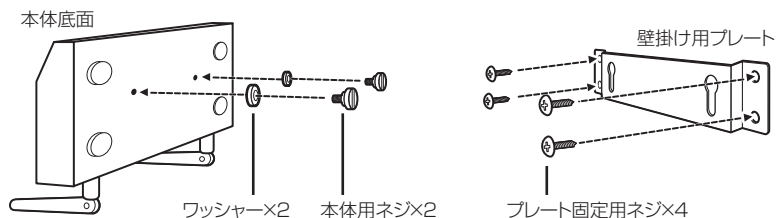
設定方法の詳細は「タッチスクリーンや電子黒板機器を使用する場合 (IWB USB を有効にする)」(P.55) を参照してください。



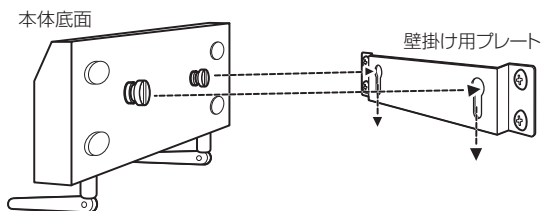


壁面に設置する場合

- 1 本体底面の壁掛け用ネジ穴にワッシャーと本体用ネジを二箇所取り付けます。
- 2 設置する壁面に壁掛け用プレートを図の向きに固定して、プレート固定用ネジで4箇所を固定します。



- 3 壁掛け用プレートの穴に本体に固定したネジを差し込み、下方にスライドして固定してください。

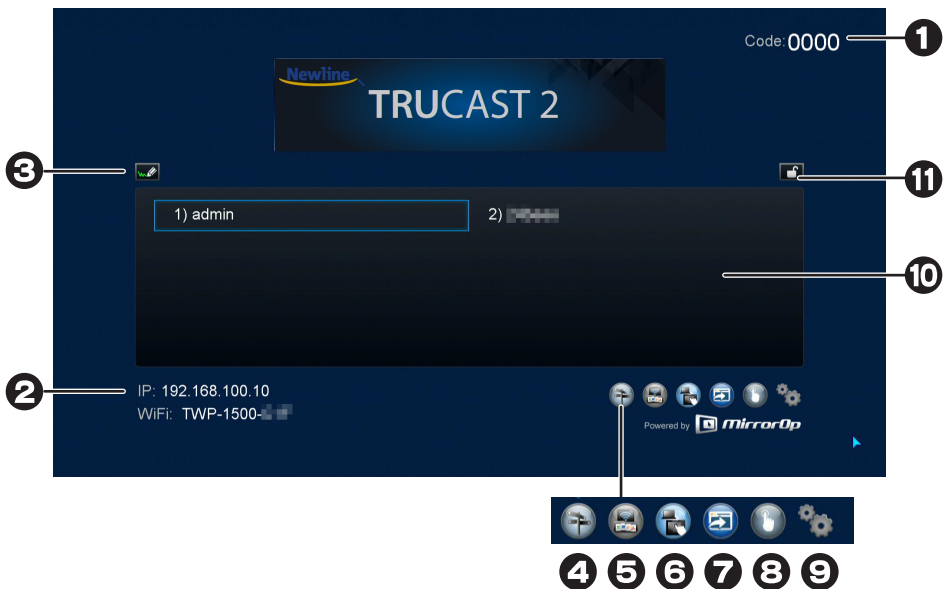




- ・ 設置に関しては専門業者にご相談ください。
- ・ 高所に取付の際は、特に確実に機器を固定してください。固定が不十分な場合、落下によってケガをしたり、機器の故障の原因になる恐れがあります。
- ・ 取り付け面の状態によっては、十分な取り付け強度を得られない場合があります。
- ・ 機器及びケーブルの重みにより機器が落下しないように、確実に取り付け・設置を行ってください。また、振動・衝撃の多い場所や不安定な場所に設置しないでください。落下によりケガをしたり、機器の故障の原因になる恐れがあります。
- ・ 取り付け面によっては、機器の設置の際に被着面の塗装などに傷がつく場合があります。


スタンバイ画面について

レシーバーと投影先の映像機器が接続されると、スタンバイ画面が表示されます。レシーバーに接続されている USB マウスやワイヤレスタブレットまたはタッチパネル対応のスクリーンで、スタンバイ画面を操作することができます。



1 Code

レシーバーにログインする際に必要な 4 桁のコードです。

<p>② IP</p>	<p>レシーバーの IP アドレスと SSID が表示されます。</p> <p>SSID は画面上の「WiFi : TWP-1500-xxx」の部分です。xxx は製品の Mac アドレスの下 3 桁です。(Mac アドレスは製品底面に MAC ID のラベルで確認できます。)</p> <hr/> <p> HINT</p> <hr/> <p>既存のネットワークに接続した際には、既存のネットワーク上の DHCP サーバから IP アドレスを取得します。</p> <p>既存のネットワークに接続する場合は、セキュリティ確保のためレシーバーの無線 LAN に暗号化を施してください。無線 LAN の暗号化は「システム管理者画面について」(P.60) → 「ネットワーク設定」 → 「無線セットアップ」から行ってください。</p> <hr/>
<p>③ ホワイトボード</p>	<p>ホワイトボードを表示します。</p> <p>(P.37)</p>
<p>④ Start Guide</p>	<p>スマートフォン／タブレット用アプリ「Mirrorop Receiver」(P.32)のダウンロード先の二次元バーコードが表示されます。</p>
<p>⑤ WiFi-Doc</p>	<p>スマートフォン／タブレット用アプリ「WiFi-Doc」(P.32)のダウンロード先の二次元バーコードが表示されます。</p>
<p>⑥ SidePad</p>	<p>スマートフォン／タブレット用アプリ「SidePad」(P.32)のダウンロード先の二次元バーコードが表示されます。</p>
<p>⑦ WebSlides</p>	<p>WebSlides の紹介画面が表示されます。</p>
<p>⑧ UoIP/UST</p>	<p>UoIP/UST の紹介画面が表示されます。</p>
<p>⑨ Setup</p>	<p>レシーバーの情報が表示されます。</p> <p>タッチパネル対応のスクリーンに表示されている場合は、「Calibration」ボタンをクリックしてスクリーンのキャリブレーションを行うことが可能です。</p>
<p>⑩ PCリスト</p>	<p>レシーバーに接続中の機器を一覧表示します。クリックして選択された機器の画面を投影することができます。</p>

11 会議制御（カンファレンスコントロール）

ボタンをクリックすると、カンファレンスコントロールモードになります。カンファレンスコントロールモードが解除されるまで新たな投影ができなくなります。カンファレンスモードを解除するには、アイコンをクリックします。

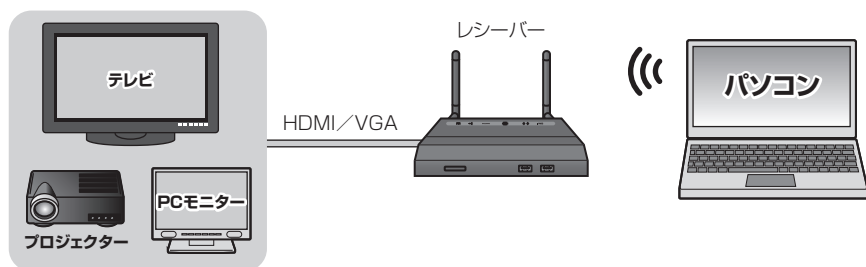


カンファレンス
コントロールモード



カンファレンス
コントロールモード解除

ネットワークの準備（レシーバーに無線 LAN 接続する）



パソコンやスマートフォン／タブレットでレシーバーに接続するには、無線 LAN の設定が必要です。

レシーバーへの映像の投影には、専用のソフトウェアおよびアプリが必要です。

ネットワークの準備が完了したら、ご利用の機器に応じたソフトウェアおよびアプリを準備してください。



HINT

レシーバーを既存のネットワークに導入する場合

本項目記載の説明は、レシーバーが既存のネットワークへ接続していない状態での説明になります。既存のネットワークへ接続する場合は、「レシーバーを既存のネットワークに導入する場合（有線 LAN 接続を使用する）」(P.25)、「レシーバーを既存のネットワークに導入する場合（無線 LAN 接続—Ap Client 機能—を使用する）」(P.26)を参照してください。また、既存のネットワークに接続する場合、レシーバーの IP アドレスが異なる場合がございますので、必ずスタンバイ画面 (P.18) でレシーバーの IP アドレスをご確認の上、レシーバーに接続してください。



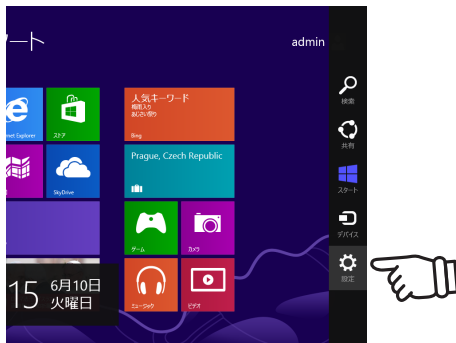
注意

- ・ 既存のネットワークへ接続（有線 LAN / Ap Client 接続 (P.25)）した場合、レシーバーの IP アドレスはネットワーク上にある DHCP サーバから渡されます。IP アドレスはスタンバイ画面で確認できます。
- ・ IP アドレスは任意の値に設定することも可能です。(P.60)
- ・ 出荷時の設定では、レシーバーの無線 LAN は暗号化されていません。セキュリティ確保のためレシーバーの無線 LAN の暗号化を有効にしてください。(P.60)

Windows の場合 (Windows 8.1 / 8)

1 「スタート」画面の右上にポインターを移動してチャームを表示させます。

2 「設定」をクリックします。



3 「利用可能」をクリックします。

注意

利用不可と表示されている場合は、無線 LAN アダプターが有効 (オン) になっているか確認してください。無線 LAN アダプターが搭載されていない場合は、LAN ケーブルを使用してレシーバーと接続してください。(P.60)



- 4** 「TWP-1500-XXX」をクリックして「接続」をクリックします。(XXX は Mac アドレスの下 3 桁です。)

「PC の共有をオンにしてこのネットワークのデバイスに接続しますか？」の画面が表示されたら、「はい、共有をオンにしてデバイスに接続します」をクリックします。



設定が完了したら、「ソフトウェア／アプリについて」(P.11) を参照して専用のソフトウェアを準備してください。

Mac の場合

- 1** メニューバーの Wi-Fi アイコンをクリックします。
- 2** 「Wi-Fi を入にする」を選択します。既に Wi-Fi が入になっている場合は選択できません。次の手順に進んでください。
- 3** 「TWP-1500-XXX」をクリックします。(XXX は Mac アドレスの下 3 桁です。)



設定が完了したら、「ソフトウェア／アプリについて」(P.11) を参照して専用のソフトウェアを準備してください。

Android の場合



注意

画面の名称は一部異なる場合がございます。最新の OS の表示に従って適宜設定を変更してください。

1 「設定」→「Wi-Fi」の順にタップします。

2 「Wi-Fi」を ON にすると、自動的にネットワークの検索を開始します。

既に ON になっている場合この操作は不要です。また、既に別のネットワークに接続した履歴がある場合、自動的に既存のネットワークに接続される場合がございます。



3 「TWP-1500-XXX」をタップして「接続」をタップします。(XXX は Mac アドレスの下 3 桁です。)



設定が完了したら、「ソフトウェア/アプリについて」(P.11) を参照して専用のアプリを準備してください。

iOS の場合 (iPhone / iPad / iPadmini / iPod touch)



画面の名称は一部異なる場合がございます。最新の OS の表示に従って適宜設定を変更してください。

1 「設定」→「Wi-Fi」の順にタップします。

2 「Wi-Fi」を ON にすると、自動的にネットワークの検索を開始します。

既に ON になっている場合この操作は不要です。また、既に別のネットワークに接続した履歴がある場合、自動的に既存のネットワークに接続される場合がございます。

3 「TWP-1500-XXX」をタップします。(XXX は Mac アドレスの下 3 桁です。)



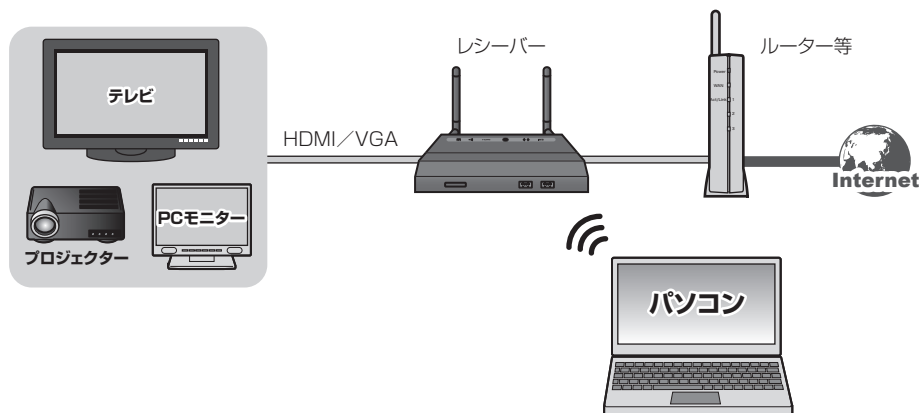
設定



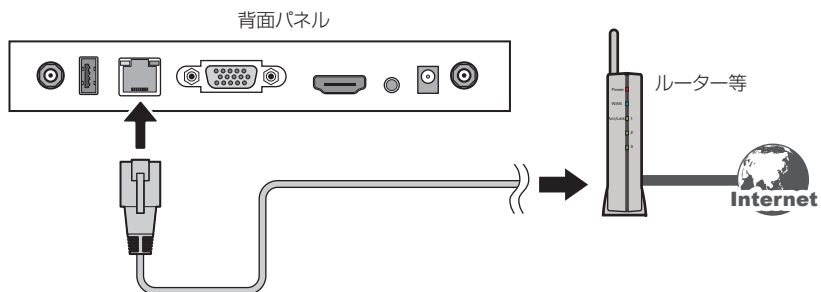
設定が完了したら、「ソフトウェア/アプリについて」(P.11) を参照して専用のアプリを準備してください。

レシーバーを既存のネットワークに導入する場合 (有線 LAN 接続を使用する)

本製品は既存のネットワークに有線 LAN 接続することも可能です。



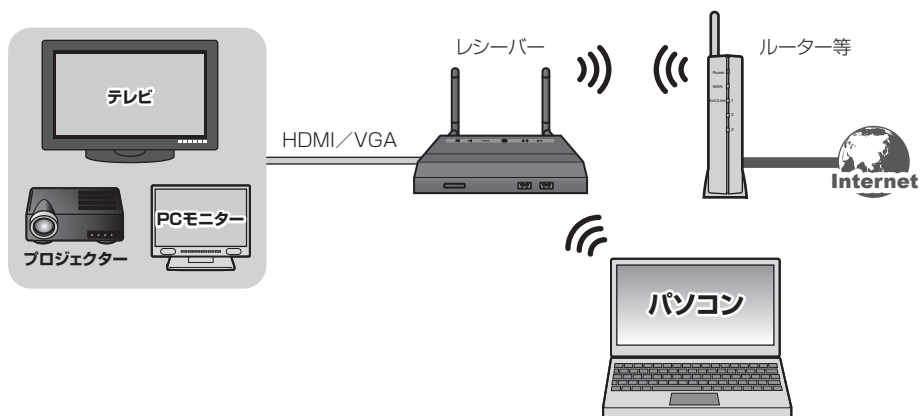
本製品背面の LAN ポートに LAN ケーブルを接続すると、既存のネットワークの DHCP サーバ渡された IP アドレスが自動的に設定されます。(スタンバイ画面で IP は確認できません。)



- ・出荷時の設定では、レシーバーの無線 LAN は暗号化されていません。セキュリティ確保のためレシーバーの無線 LAN の暗号化を有効にしてください。(P.60)
- ・レシーバーへの同時接続台数が 10 台以上の場合は、有線 LAN でのご使用をお勧めいたします。

レシーバーを既存のネットワークに導入する場合（無線 LAN 接続—Ap Client 機能—を使用する）

本製品は Ap Client 機能を使用して既存のネットワークに無線 LAN 接続することも可能です。



- 1 「ネットワークの準備（レシーバーに無線 LAN 接続する）」(P.21) を参照して、レシーバーとパソコンの接続準備をします。
- 2 「Web 管理画面」(P.57) を参照して、「システム管理者」画面のメニューから「ネットワーク設定」(P.61) 画面を表示します。

- 3** 「Ap Client」の項目を導入先の環境に合わせて設定してください。設定が完了したら「適用」をクリックしてレシーバーを再起動します。
再起動後にレシーバーのIPアドレスをご確認の上、再度パソコンからレシーバーへ接続してください。



注意

・出荷時の設定では、レシーバーの無線LANは暗号化されていません。セキュリティ確保のためレシーバーの無線LANの暗号化を有効にしてください。(P.60)

ソフトウェア／アプリの準備

本製品を使用するにはパソコン専用のクライアントソフトウェアまたはスマートフォン／タブレット専用アプリの起動が必要です。
ご利用の環境に応じていずれかの方法でクライアントソフトウェアおよびアプリを準備してください。

Windows / Mac の場合

「付属のUSBトークンからソフトウェアを起動する (Windowsのみ)」(P.27)

「付属のUSBトークンからソフトウェアをインストールする(Windowsの場合)」(P.28)

「付属のUSBトークンからソフトウェアをインストールする (Macの場合)」(P.29)



注意

・USB PnS Token ウィザード (P.65) で作成したトークンからはインストールできません。

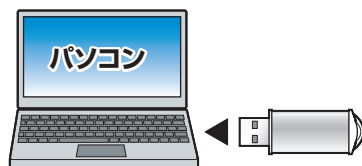
「レシーバーの管理画面からソフトウェアをダウンロードする」(P.31)

スマートフォン／タブレットの場合

「スマートフォン／タブレットの専用アプリについて」(P.32)

付属のUSBトークンからソフトウェアを起動する (Windowsのみ)

- 1** USBトークンをパソコンのUSBポートに接続します。



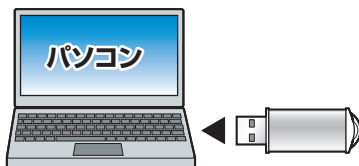
- 2** USB トークンは USB ストレージとして認識されます。USB ストレージを表示して「WIPS2.Ink」を実行してください。

以降の操作は「パソコンの画面を投影する (WIPS2 を起動する)」(P.33) を参照してください。

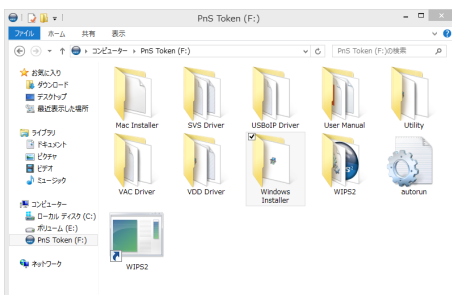


付属の USB トークンからソフトウェアをインストールする (Windows の場合)

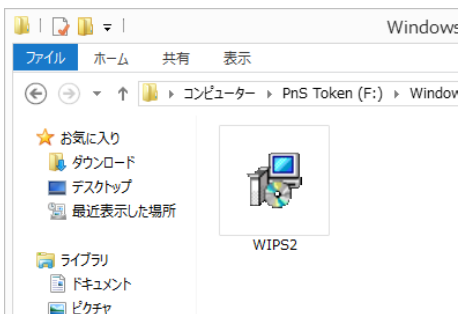
- 1** USB トークンをパソコンの USB ポートに接続します。



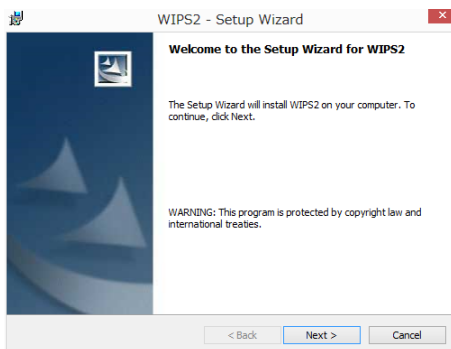
- 2** USB トークンは USB ストレージとして認識されます。USB ストレージから「Windows Installer」フォルダを表示します。



- 3** 「WIPS2.msi」をダブルクリックしてインストールを開始します。



- 4 「Next」をクリックして画面の指示に従ってインストールを進めます。



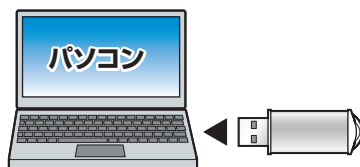
- 5 インストールが完了すると、デスクトップに「WIPS2」アイコンが表示されます。「WIPS2」アイコンをダブルクリックするとソフトウェアが起動します。

以降の操作は「パソコンの画面を投影する（WIPS2 を起動する）」(P.33) を参照してください。

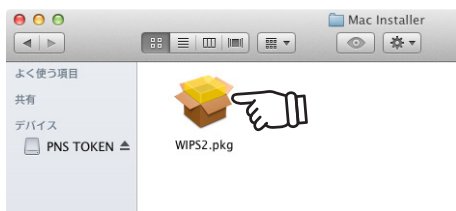
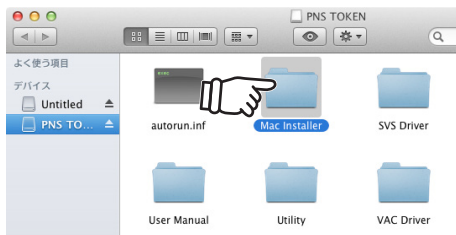


付属の USB トークンからソフトウェアをインストールする（Mac の場合）

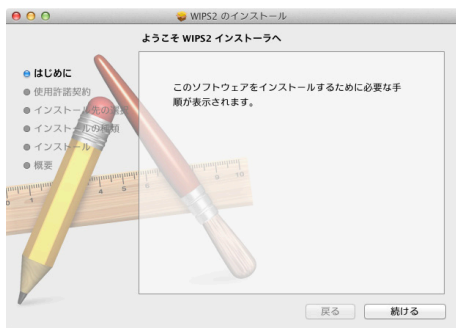
- 1 USB トークンをパソコンの USB ポートに接続します。



- 2 USB トークンがマウントされるとデスクトップに「PNS TOKEN」が表示されます。
「PNS TOKEN」の「Mac Installer」フォルダを表示します。
- 3 「WIPS2.pkg」をダブルクリックしてインストールを開始します。



- 4 「続ける」をクリックして画面の指示に従ってインストールを進めます。
- 5 途中「Soundflower」のインストール確認画面が表示されたら「はい」をクリックして「Soundflower」をインストールしてください。



- 6 インストールが完了すると、Dock に「WIPS2」アイコンが表示されます。「WIPS2」アイコンをダブルクリックするとソフトウェアが起動します。

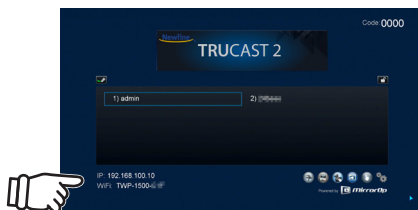
以降の操作は「パソコンの画面を投影する (WIPS2 を起動する)」(P.33) を参照してください。



レシーバーの管理画面からソフトウェアをダウンロードする

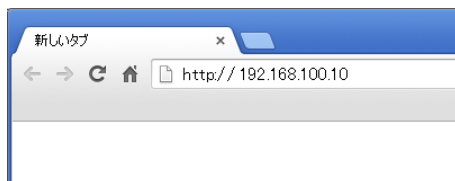
- 1 ブラウザのアドレス欄に "http://" の後にレシーバーの IP アドレスを入力します。(レシーバーの IP アドレスはスタンバイ画面から確認できます。)

例) http://192.168.100.10

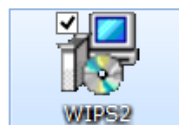
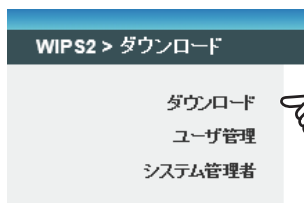


- 2 管理画面が表示されます。メニューから「ダウンロード」をクリックします。

ご利用のパソコンに応じた「Download」をクリックして、ソフトウェアのインストーラーをパソコンに保存します。



- 3 保存したファイルをダブルクリックしてインストールを行います。



以降の手順については、Windows をご利用の場合は「付属の USB トークンからソフトウェアをインストールする (Windows の場合)」(P.28) の手順 **3** 以降を、Mac をご利用の場合は「付属の USB トークンからソフトウェアをインストールする (Mac の場合)」(P.29) の手順 **3** 以降を参照してください。

スマートフォン／タブレットの専用アプリについて

スマートフォンやタブレットで本製品を使用するには専用アプリの起動が必要です。スタンバイ画面に表示される二次元バーコードから下記アプリの入手先を表示するか、App Store または Google Play で下記アプリを検索してインストールしてください。

専用アプリ

アプリ	用途
 Wifi-doc (Bundle Version)	スマートフォンやタブレットに保存されている写真や文章をスクリーンに表示して簡単に操作することができます。パワーポイントのスライドを操作したり、スクリーンキャプチャーを瞬時に送信できるなど、便利な機能が多数搭載されています。
 SidePad Receiver  Mirrorop Receiver	スマートフォンやタブレットを使用して、レシーバーと接続しているパソコンのデスクトップを操作することができます。 スマートフォンやタブレットにインストールした専用アプリを起動し、パソコンの WIPS2 から「起動 SidePad」を選択してください。 SidePad Receiver 起動した端末からリモートデスクトップが可能になります。

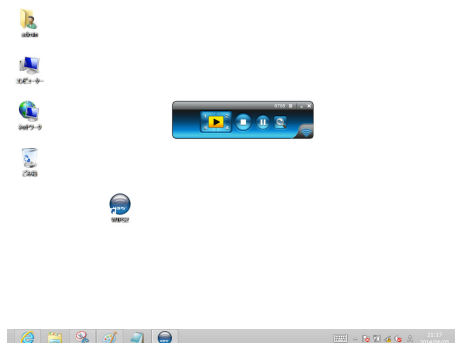
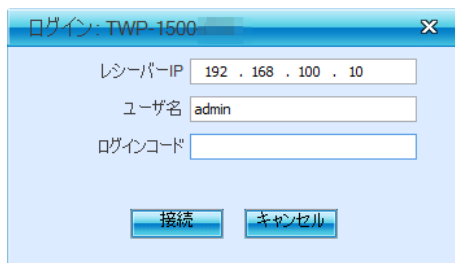
各アプリの使用方法については、下記を参照してください。

「スマートフォンやタブレットに保存されているデータを投影する (WiFi-Doc)」(P.43)

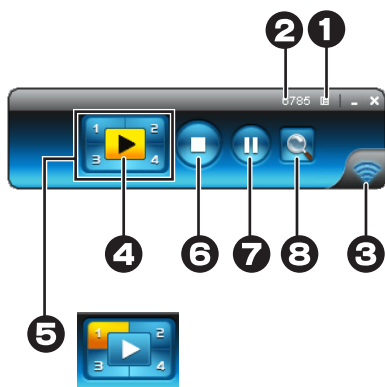
「スマートフォンやタブレットを使用してパソコンを操作する (Mirrorop Receiver / SidePad Receiver)」(P.41)

パソコンの画面を投影する（WIPS2 を起動する）

- 1 USB トークンまたはパソコンにインストールされた「WIPS2」を起動します。
- 2 ログイン画面が表示されます。スタンバイ画面に表示されているレシーバーの「IP アドレス」「Code」、任意の名前で「ユーザ名」を入力して「接続」をクリックします。
- 3 ログインが完了するとパソコンのデスクトップに操作パネルが表示され、レシーバーに接続されているスクリーンにはパソコンのデスクトップが表示されます。



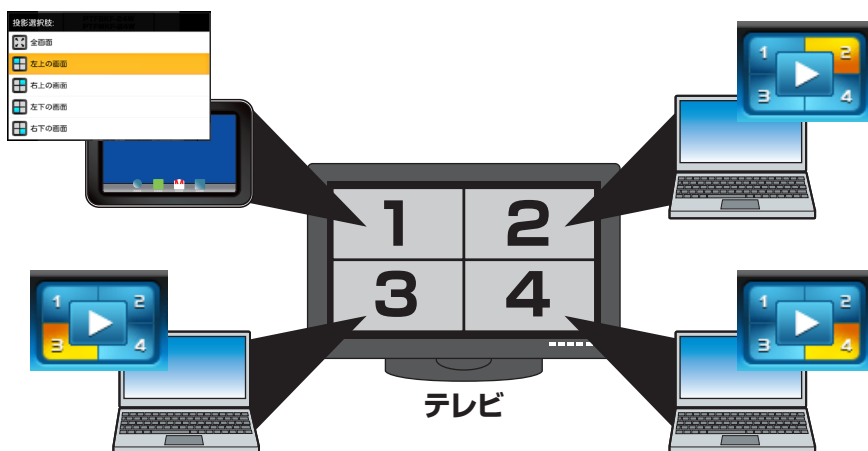
操作パネル



① メニューボタン	クリックしてメニュー（P.52）を表示します。
② Code	コードが表示されます。
③ 無線ステータス	無線 LAN で接続中はアイコンが点滅します。
④ 全画面表示	投影先にフルスクリーン表示します。
⑤ 4分割表示	<p>投影先のスクリーンを 4 分割 (P.34) して、指定した番号の位置に画面を表示します。 表示中は表示位置が黄色で表示されます。</p> <p>☒は画面左上に投影されている状態です。1 番をクリックすると、画面左上に投影されます。</p>
⑥ 停止	投影を停止します。
⑦ 一時停止	<p>投影を一時停止します。 再開する場合は再度ボタンをクリックします。</p>
⑧ 拡大鏡	クリックすると表示されている画面が拡大されます。元に戻す場合は再度クリックします。

画面を 4 分割表示する

例) パソコン 3 台、タブレット 1 台で 4 分割表示する場合



- 1 タブレットで「WiFi-Doc」(P.43)を起動して、投影先の「TWP-1500-XXX」を選択します。(XXXはMacアドレスの下3桁です。)



- 2 ログイン画面が表示されたら、スタンバイ画面に表示されているコード(P.18)を入力します。



- 3 投影するファイルを選択します。写真やスクリーンキャプチャーを選択することも可能です。詳しい操作方は「スマートフォンやタブレットに保存されているデータを投影する (WiFi-Doc)」(P.43)を参照してください。



- 4 画面右上から「投影選択」ボタンをタップします。



- 5 投影位置をタップすると、指定した位置にタブレットの画面が投影されます。



- 6 引き続き、1～3台目のパソコン上の操作パネルで表示位置を2～4まで割り当てます。

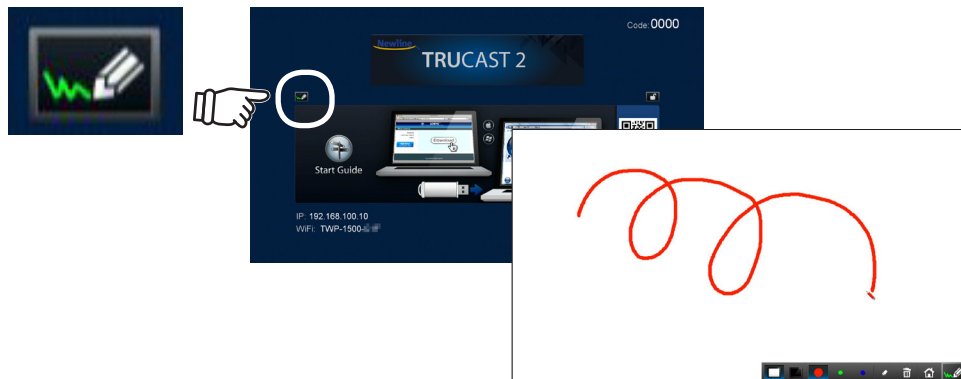


画面分割時の音声の送信について

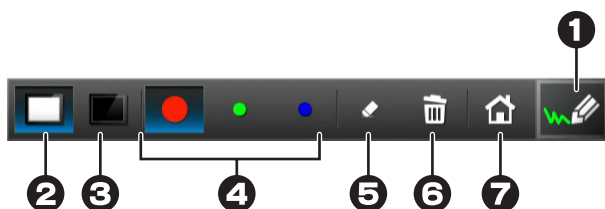
画面分割に送信される音声は、1番の画面（左上）に投影されている機器のみです。

ホワイトボード機能

スタンバイ画面のホワイトボードボタンをクリックすると、スクリーンをホワイトボードとして使用することができます。操作はUSBポートに接続したタブレットまたはマウスで行います。



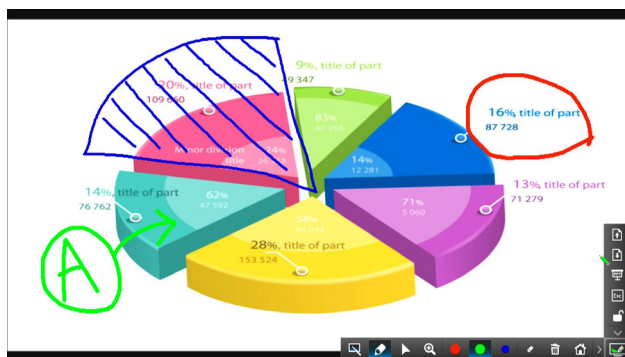
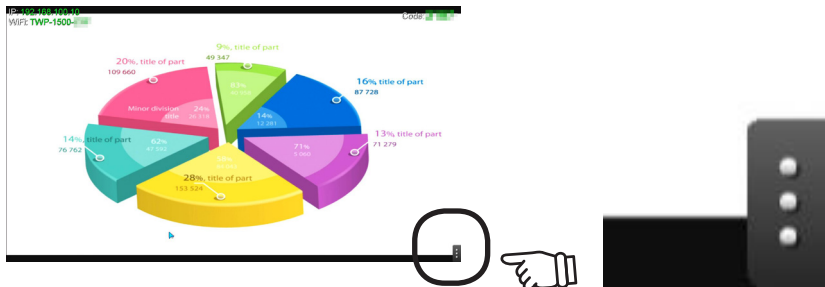
主な機能



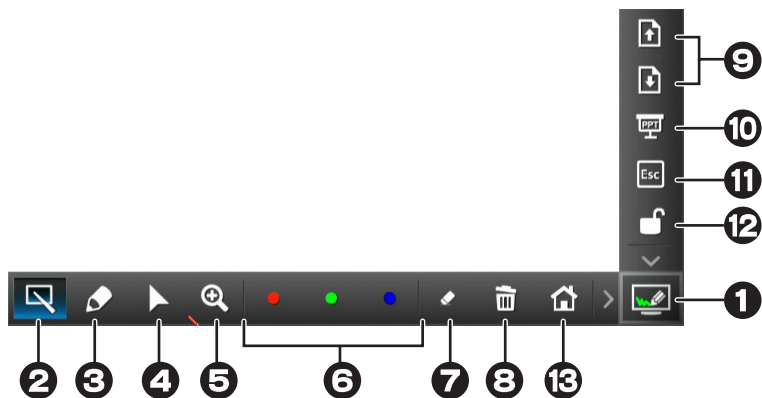
① パネルのオン/オフ	ボタンの表示/非表示を切り替えます。
② 白背景	背景が白くなります。
③ 黒背景	背景が黒になります。
④ 赤/緑/青 ペン	画面上でドラッグすると画面上に描画することができます。 クリックすることによりペンの太さが変わります。
⑤ 消しゴム	画面上に描画した内容を消すことができます。
⑥ ゴミ箱	画面上に描画した内容を全て消すことができます。
⑦ スタンバイ画面に戻る	スタンバイ画面に戻ります。

描画／プレゼンテーション機能

投影中の画面に自由に描画したりスライドの操作を行うことができます。
投影中の画面右下にあるアイコンをクリックすると操作パネルが表示されます。



主な機能



① パネルのオン／オフ	ボタンの表示／非表示を切り替えます。
② ポインターモード	画面上を指し示す場合に使用します。 ドラッグやクリックをしても何も機能しません。
③ ペンモード	画面上でドラッグすると画面上に描画することができます。
④ カーソルモード	パソコンと同様にカーソルとして機能します。 表示中のパソコンの画面に対して、ドラッグやクリックなどパソコンを操作することができます。
⑤ 拡大鏡	投影中の画面を拡大します。 拡大中画面の移動は手型のアイコンで行えます。 再度タップすると元の縮尺に戻ります。
⑥ 赤／緑／青 ペン	画面上でドラッグすると画面上に描画することができます。 クリックするごとにペンの太さが変わります。
⑦ 消しゴム	画面上に描画した内容を消すことができます。
⑧ ゴミ箱	画面上に描画した内容を全て消すことができます。
⑨ ページ送り	ワードやパワーポイントなどのドキュメントを表示している場合、前のページに戻ったり次のページを表示することができます。
⑩ スライドショー	パワーポイントを表示している場合、スライドショーを再生することができます。
⑪ ESC	スライドショーを中止します。

12 カンファレンスコントロールモード	投影中の機器のみレシーバーを使用できます。他の機器からの投影操作ができなくなります。カンファレンスコントロールモードを解除する場合は、再度ボタンをクリックします。
13 スタンバイ画面に戻る	スタンバイ画面に戻ります。

分割画面に表示されているパソコンを USB マウスで操作する

レシーバーに USB マウスが接続されている場合、「カーソルモード」を選択することで、分割画面上のパソコン画面をレシーバーの USB マウスで操作することができます。操作したいパソコン画面上にレシーバーのカーソルを移動すると、該当するパソコンを操作することが可能です。

- 1番の位置にカーソルを動かすと
- 1番の位置に表示されているパソコンを操作できます。



注意

スマートフォンやタブレットの画面は操作できません。

スマートフォンやタブレットを使用してパソコンを操作する (Mirrorop Receiver / SidePad Receiver)

スマートフォンおよびタブレット専用アプリ「Mirrorop Receiver」または「SidePad Receiver」を使用すると、スマートフォンやタブレットを使用してネットワーク経由でパソコンの画面を操作することができます。

- 1** スマートフォンまたはタブレットの「Mirrorop Receiver」または「SidePad Receiver」を起動します。



スマートフォンまたはタブレットが待ち受け状態になります。

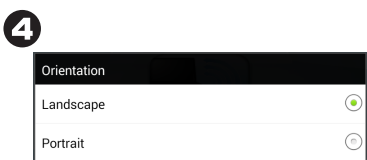
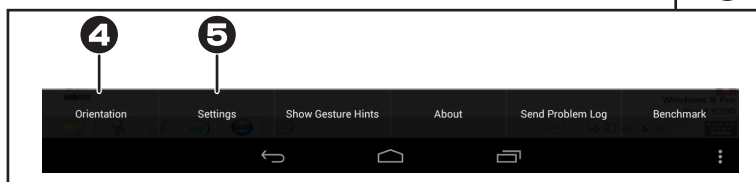
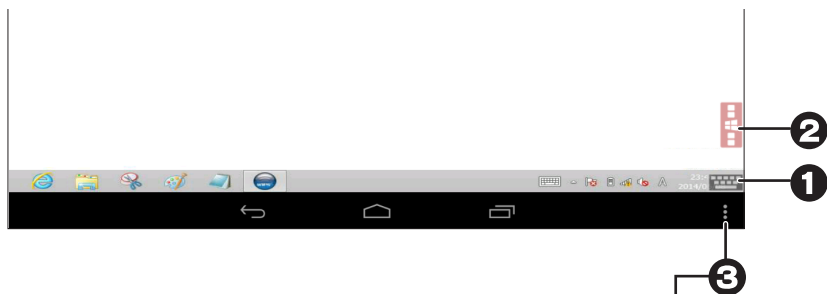


- 2** 操作したいパソコン上の操作パネルのメニューをクリックして、「起動 SidePad」を選択します。
複数のスマートフォンまたはタブレットで「Mirrorop Receiver」または「SidePad Receiver」を起動している場合、表示先を選択する画面が表示されます。
表示先のスマートフォンまたはタブレットを選択して「接続」(Connect) をクリックしてください。



- 3** スマートフォンまたはタブレット上にパソコンの画面が表示されます。

操作方法



<p>1</p>	<p>キーボードを表示します。 AndroidまたはiOSのキーボード画面の他、パソコンのキーボードに対応したキーが表示されます。 「Hide」をタップするとキーボードを隠します。</p>	
<p>2</p>	<p>チャームを表示します。(Windows 8.1 / 8 投影時のみ)</p>	
<p>3</p>	<p>設定画面を表示します。</p>	
<p>4</p>	<p>画面の向きを変更します。</p>	
<p>5</p>	<p>入力方法を変更します。</p>	

スマートフォンやタブレットに保存されているデータを投影する (WiFi-Doc)

スマートフォンまたはタブレットに保存されている写真や文章をスクリーンに表示して簡単に操作することができます。

パワーポイントのスライドを操作したり、スクリーンキャプチャーを瞬時に送信できるなど、便利な機能が多数搭載されています。

- 1 スマートフォンまたはタブレットの「WiFi-Doc」を起動します。



- 2 投影先の「TWP-1500-XXX」を選択します。(XXX は Mac アドレスの下 3 桁です。)

投影先の IP アドレスを直接入力することも可能です。その場合は「タップして投影先 IP アドレスを直接入力」を選択します。

投影する前にオフラインで表示を確認することも可能です。その場合は「オフラインでプレビュー」を選択します。

- 3 ログイン画面が表示されたら、スタンバイ画面に表示されているコード(P.18)を入力します。



操作方法

Android

- 1 「ドキュメント」「写真」「Shot & Show」(スクリーンキャプチャー) から投影するデータを選択します。



2 画面をタップすると投影を開始します。



iOS

1 ドキュメントのファイル一覧画面が表示されます。
写真またはスクリーンキャプチャを投影する場合は、画面下部の「写真」または「Shot & Show」(スクリーンキャプチャー) を選択します。

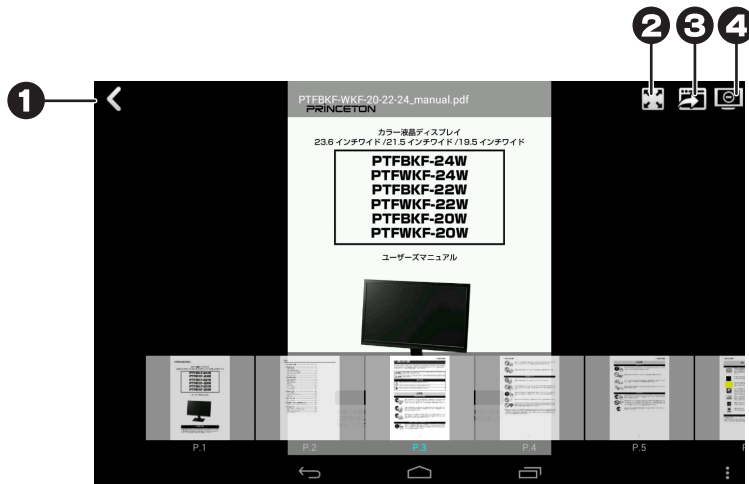



2 ファイルを選択して、画面をタップすると投影を開始します。



ワードやパワーポイントなどのファイルを投影する（ドキュメント表示機能）

投影中の画面をタップすると操作ボタンが表示されます。
 特定のページを表示する場合は、画面下部のページサムネイルをタップします。



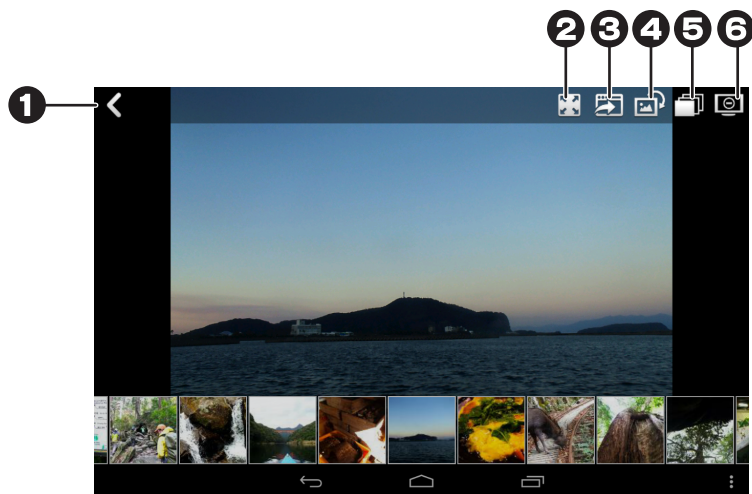
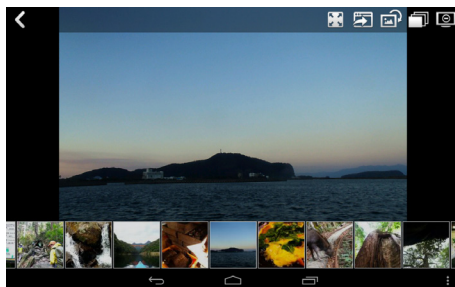
① 前の画面に戻る	前の画面に戻ります。
② 投影選択	ボタンをタップして投影先を選択します。投影中の位置が水色で表示されます。 
③ WebSlide	WebSlide 機能を使用して表示中の画面を配信します。詳しい操作方法は「WebSlidesの配信と受信方法」(P.49)を参照してください。
④ 投影停止	ボタンをタップすると一時的に画面の投影を停止します。投影を再開する場合は再度タップします。
ページを送る	画面を右から左にスワイプすると次のページを表示します。
ページを戻る	画面を左から右にスワイプするとページに戻ります。

写真を表示する（写真表示機能）

1 「写真」を選択してスマートフォンやタブレットに保存されている写真を選択します。




2 画面をタップすると操作ボタンが表示されます。
特定の写真を表示する場合は、画面下部のサムネイルをタップします。



1 前の画面に戻る

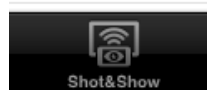
前の画面に戻ります。

<p>② 投影選択</p>	<p>ボタンをタップして投影先を選択します。投影中の位置が水色で表示されます。</p> 
<p>③ WebSlide</p>	<p>WebSlide 機能を使用して表示中の画面を配信します。詳しい操作方法は「WebSlidesの配信と受信方法」(P.49)を参照してください。</p>
<p>④ 画像回転</p>	<p>ボタンをタップするごとに画像を 90° 回転します。</p>
<p>⑤ スライドショー</p>	<p>表示されている画像からスライドショーを開始します。スライドショーを停止する場合は、再度ボタンをタップします。</p>
<p>⑥ 投影停止</p>	<p>ボタンをタップすると一時的に画面の投影を停止します。投影を再開する場合は再度タップします。</p>
<p>ページを送る</p>	<p>画面を右から左にスワイプすると次の画像を表示します。</p>
<p>ページを戻る</p>	<p>画面を左から右にスワイプすると1つ前の画像に戻ります。</p>

スナップショット機能 (Shot & Show)

スマートフォンやタブレットのスナップショットを瞬時に投影することができます。

1 「Shot & Show」をタップします。



2 ホームボタンをタップしてスクリーンショットを撮影したい画面を表示します。

- 3 スクリーンショットを撮影します。例えば、Android 端末の場合は、「電源ボタン」と「音量下げる」ボタンを同時に押します。

▲ 注意

ご利用の機器ごとにスクリーンショットの撮影方法が異なりますのでご注意ください。

- 4 撮影されたスクリーンショットが投影されます。

スナップショット機能を終了する場合は、ご利用の機器の操作方法に応じてアプリを終了してください。

WebSlides の配信と受信方法

投影中の画像をレシーバーと同じネットワーク上の他の機器のブラウザを使用して表示することができます。

パソコンから WebSlides へ画像を配信する

- 1 パソコン上で WIPS2 のメニューをクリックして、「WebSlides を有効にする」を選択します。



- 2 「全画面表示」ボタンをクリックします。WebSlides へ配信中の画像を受信する番号を 1 から振り直してください。



- 3 投影中の画面を受信したい機器（受信側の機器）にてブラウザのアドレス欄に "http://" の後にレシーバーの IP アドレスを入力します。

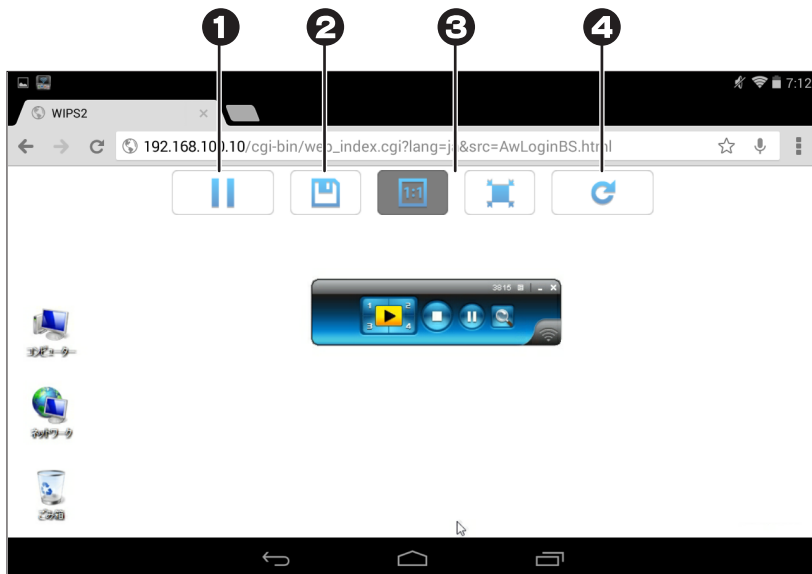
例) <http://192.168.100.10>



- 4** 管理画面が表示されます。
メニュー下の「WebSlides」をクリックします。



- ・ 配信できる画像は全画面表示のみです。分割画面は配信できません。
- ・ 受信側の機器とレシーバーが同じネットワーク上に設置されている必要があります。



1	ボタンをタップすると画像を表示した状態で受信を一時停止します。受信を再開する場合は再度ボタンをタップします。
2	画像を保存します。
3	画像の表示サイズを変更します。 (配信元と同じサイズで表示／表示中の機器の画面サイズに合わせて表示)
4	ボタンをタップすると画面を更新します。

WiFi-Doc を使用してスマートフォンやタブレットの画面を配信する

- 1 WiFi-Doc で配信したい画面が表示されている状態で画面をタップして、操作ボタンを表示します。
- 2 画面右上の「WebSlide」ボタンをタップします。



以降、受信側の機器操作は「パソコンから WebSlides へ画像を配信する」(P.49) の手順 3 以降を参照してください。

レシーバーの設定を変更する

レシーバーと接続しているパソコンを使用して、レシーバーの設定を変更することができます。

パソコン上の操作パネルのメニューをクリックするとメニューが表示されます。



注意 Windows と Mac OS では一部のメニュー表記と機能が異なります。



操作パネルのメニュー

レシーバー情報表示

レシーバーの SSID や IP アドレスが表示されます。

管理画面

レシーバーの管理画面を表示します。

※ブラウザのアドレスにレシーバーの IP アドレスを入力した際に表示される画面と同じです。

レシーバーを探す

レシーバーとの接続を切断して、接続可能な別のレシーバーを探索します。

起動 SidePad

SidePad 機能 (P.41) を使用します。

WebSlides を有効にする

WebSlides 機能 (P.49) を使用します。

プロジェクション画面の選択

送信元のパソコンが 2 画面表示設定の場合、どちらの画面表示を投影するか選択することができます。

プロジェクション品質

通常は「一般」を選択します。

「ベスト」を選択すると高精細な画像表示になりますが、表示速度が遅くなります。

投影モード

通常は「プレゼンモード」を選択します。

「ビデオモード」を選択すると自動遅延補正が有効にして動画表示を最適化します。

解像度の設定

「変更しません」オリジナルの画像解像度で投影します。

「変更する」自動的に最適な解像度で投影します。

「いつも尋ねる」投影する際に、最適な解像度に変更するか確認ダイアログが表示されます。

投影縦横比

通常は「全画面表示」を選択します。

投影画像のオリジナルサイズで投影する場合「オリジナル画面サイズ」を選択します。

IWB USB を有効にする (Windows のみ)

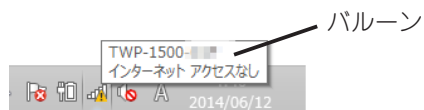
IWB USB ブリッジを有効にします。

全画面で投影した際に IWB デバイスからこの PC が操作されます。

チェックを付けると、エラーダイアログが表示される場合がございます。「タッチスクリーンや電子黒板機器を使用する場合 (IWB USB を有効にする)」(P.55) を参照してドライバーのインストールを行ってください。

アドバンス画面コピー (Windows のみ)

アドバンス画面コピーを有効にすると、ステータスバルーンも含めた画面が投影されます。無効にした場合、パソコン上でステータスバルーンが表示されてもスクリーン上には表示されません。



音声伝送

チェックが付いている状態では、画像と共に音声も送信されます。



音声は全画面表示時または4分割表示時の1番（左上）に投影中の場合に送信されます。4分割表示時に2～3番の位置に投影中の場合、音声は送信されません。

自動電力管理（Windows のみ）

自動電力管理を有効にします。

この設定を有効にすると、投影中は電源オプションのプランが高パフォーマンスになります。

WiFi 自動接続

WIPS2 起動時に自動で TWP-1500 の WiFi ネットワークに接続します。

USB PnS Token ウィザード（Windows のみ）

USB トークンを作成することができます。

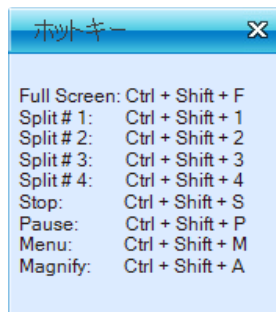
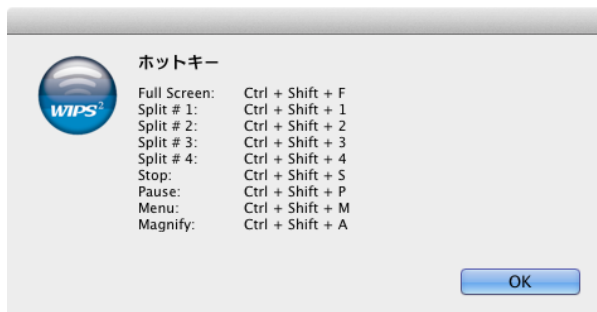
詳しい操作方法は「USB トークンを作成する(Windowsのみ)」(P.65)を参照してください。

デスクトップにアプリをコピー（Windows のみ）

アプリケーションのショートカットをデスクトップに保存することができます。

ホットキー

本製品で使用できるホットキーの一覧が表示されます。



このソフトウェアについて

レシーバーのソフトウェアバージョンが表示されます。

終了

メニューを終了します。

タッチスクリーンや電子黒板機器を使用する場合（IWB USB を有効にする）

レシーバーと接続しているパソコンを使用して、レシーバーの設定を変更します。

USBolP Driver のインストール

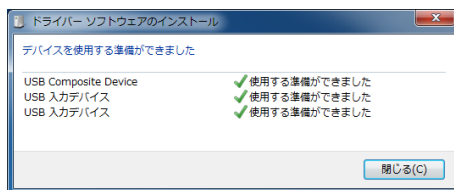
- 1 USB トークンをパソコンに接続して USB トークン内に保存されている「USBolP Driver」フォルダを表示しします。
- 2 「UOIP_Driver Installer V1105.exe」をダブルクリックして、ドライバーのインストールを開始します。



UOIP_Driver
Installer
V1105.exe

「IWB USB を有効にする」にチェックを付けると、TWP-1500 の IWB USB ポートに取り付けたデバイスのドライバーソフトウェアのインストールが始まります。

Windows 標準のドライバで動作しない場合はタッチスクリーンや電子黒板付属のドライバをインストールしてください。



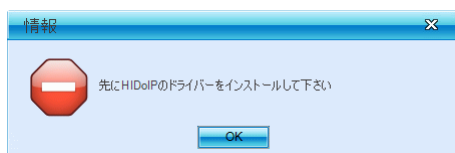
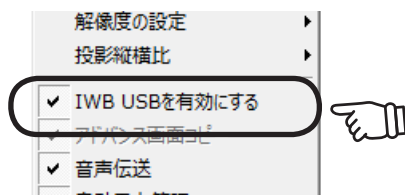
使い方

- 1 「タッチスクリーンや電子黒板機器と接続する場合」(P.16)を参照して、タッチスクリーンや電子黒板機器とレシーバーを接続します。
- 2 「ネットワークの準備（レシーバーに無線 LAN 接続する）」(P.21) を参照して、パソコンでレシーバーに接続します。

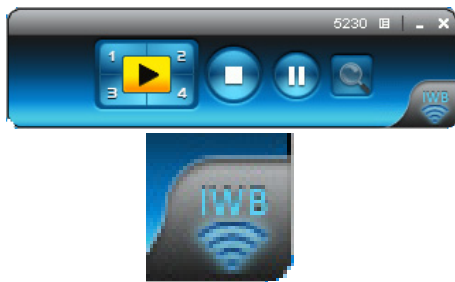
- 3** パソコン上の操作パネルのメニューをクリックしてメニューを表示します。



- 4** 「IWB USB を有効にする」にチェックを付けます。
USBolP ドライバをインストールしていない場合、「先にHIDolP ドライバをインストールしてください」とエラーダイアログが表示されます。



機器の認識またはドライバのインストールが完了すると、USBポートに接続した機器が認識され、操作パネル右下のアイコンに「IWB」の文字が表示されます。



Web 管理画面

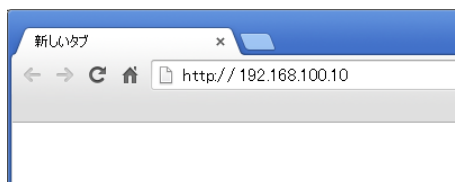
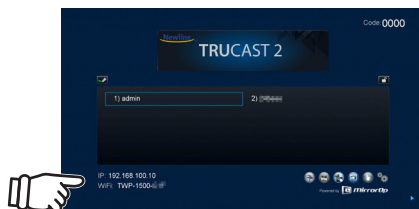
ブラウザを使用してレシーバーの管理画面を表示することができます。

管理画面を表示する

- 1 レシーバーと同じネットワーク上に設置されている機器のブラウザを起動します。
- 2 ブラウザのアドレス欄に "http://" の後にレシーバーの IP アドレスを入力します。(レシーバーの IP アドレスはスタンバイ画面から確認できます。)

例) <http://192.168.100.10>

- 3 管理画面が表示されます。



ダウンロード

パソコン用のアプリケーションをダウンロードすることができます。
(P.31 参照)

ユーザ管理

レシーバーに接続可能な機器の画面表示を管理することができます。
画面下部にはレシーバーに接続可能な機器の IP アドレスが表示されます。
パスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックするとユーザ管理画面が表示されま
す。

初期パスワード： moderator



1	全画面表示
2	各ユーザーの番号をクリックすると、ユーザーの画面が指定した位置に投影されます。 1：左上表示 2：右上表示 3：左下表示 4：右下表示

③	投影停止
④	チェックを付けると、他の端末からは投影管理が行えなくなります。

システム管理者

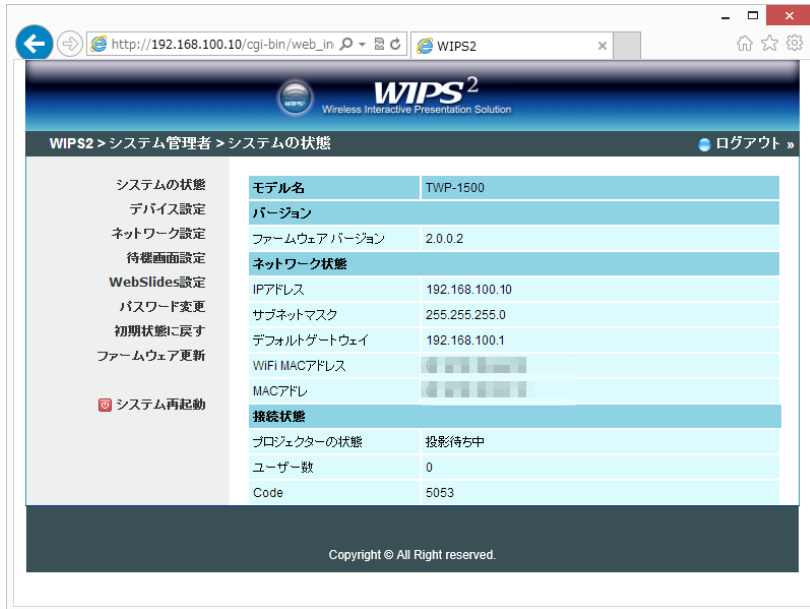
レシーバーの設定を変更することができます。

パスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックするとシステム管理者画面が表示されます。

初期パスワード：admin

システム管理者画面について

レシーバーの動作設定を行うことができます。



システムの状態

現在のレシーバーのネットワーク設定および投影状態を表示します。
ログインコードもこの画面で確認することができます。

デバイス設定

映像出力に使用するポートを「VGA」または「HDMI」から選択します。
VGA と HDMI に分かれて設定されますが、設定した解像度で VGA と HDMI の両方のポートに出力されます。

例えば、初期設定では XGA に設定されていますが VGA だけでなく HDMI へも XGA で出力されています。

初期設定：VGA / 解像度 XGA (1024 × 768)

Code

ログインコードの設定を変更します。

無効にする	ログインコードの入力が不要になります。
ランダム	レシーバーを起動するごとにコードが変わります。
指定	任意の 4 桁の数字を設定することができます。

初期設定：ランダム

設定を変更したら「適用」をクリックします。
レシーバーが再起動されますので、再度レシーバーに接続してください。

IWB USB ポート

電子黒板などを使用する場合（P.16）は、「IWB (HID)」にチェックを付けます。

初期設定：IWB (HID)

ネットワーク設定


レシーバーのネットワーク設定を変更します。


初期設定

IP セットアップ	IP アドレスを自動的に取得
DHCP サーバーの設定	自動
無線セットアップ	無線 LAN：有効にする
	SSID：TWP-1500-XXX（XXX は Mac アドレスの下 3 桁です。）
	リージョンコード：WORLDWIDE ※ 初期値の WORLDWIDE では無線チャンネルは CH1-CH11 までとなります。CH13 まで使用したい場合は JAPAN へ変更してください。
	SSID ブロードキャスト：有効 ※ SSID ブロードキャストを無効にすると TWP-1500 の SSID を隠蔽し無線 LAN クライアントから SSID が検索できなくなります。
	チャンネル：Auto
	暗号化：Disable（無効）
	キー：（空白）
チャンネル帯域幅：自動	

Ap Client	既存の AP に接続：無効にする
	暗号化：Disable
ホストとドメイン名	ホスト：TWP-1500-XXX(SSID) ドメイン名：(空白)
フィルタリング	全て開放
SNMP	有効にする


設定を変更したら「適用」をクリックします。
 レシーバーが再起動されますので、再度レシーバーに接続してください。

 HINT	<p>既存のアクセスポイントにブリッジ接続する場合</p> <p>既存のネットワークへ接続する方法として、有線 LAN での接続と Ap Client(既存のアクセスポイントに接続する)方法があります。</p> <p>既存のアクセスポイントに接続(ブリッジ接続)する場合は、『既存の AP に接続』を「有効にする」にチェックをつけ「既存の AP の SSID」「暗号化」「キー」を設定してください。</p>
--	--

 注意	<p>レシーバーが既存のネットワークへ接続している場合、レシーバーと接続可能なパソコンがレシーバー経由で既存ネットワークへ接続できるようになりますので、セキュリティ確保のため無線セットアップの『暗号化』を有効にして暗号化キーを設定してください。</p>
--	--

待機画面設定 (スタンバイ画面設定)

待機画面 (スタンバイ画面) のヘッダー画像を変更することができます。

 注意	<p>「全画面に設定」にした場合、PC リスト画面が表示されなくなりますのでご注意ください。</p>
--	--



画像をロゴに設定した場合



全画面に設定した場合

背景を設定	タイプ	<p>「画像をロゴに設定する」 ロゴマークだけを変更します。</p> <p>「全画面に設定する」 スタンバイ画面全体が指定した画像に変更されます。</p>
画面設定	デバイスの情報	スタンバイ画面にデバイス情報を表示しない場合は「無効にする」にチェックを付けます。
	フォントサイズ	フォントサイズを設定します。
	スクリーンセーバー設定	設定した時間が経過するとスクリーンセーバーを起動します。

ロゴ画像を変更する場合

- ※ 「Logo 画面に設定する」画像は 1500 × 300 ピクセルで作成してください。
- ※ 「全画面に設定する」画像は 1280 × 720 ピクセルで作成してください。

「ファイルを選択」をクリックしてアップロードするイメージファイルを選択します。
「イメージファイルアップロード」をクリックして画像をアップロードするとレシーバーが再起動されます。
再度レシーバーに接続してください。

工場出荷時の画像に戻す場合は「デフォルトイメージに復元」をクリックしてください。

WebSlides 設定

オートリフレッシュ 間隔	指定した秒数間隔で画面をリロードします。
アクセスコードの設定	<p>「無効にする」(初期設定) ログインパスワードの入力が不要になります。</p> <p>「ログインコードと同じパスワードを使用する」 WebSlides 機能を使用する際にコードの入が必要になります。</p> <p>「下記パスワードを使用する」 WebSlides 機能を使用する際に、任意の指定したパスワードの入が必要になります。 (4桁の数字)</p>

設定を変更したら「適用」をクリックします。
レシーバーが再起動されますので、再度レシーバーに接続してください。

パスワード変更

ユーザ管理およびシステム管理者画面にログインする際のパスワード（最大 8 桁）を変更します。

設定を変更したら「適用」をクリックします。
レシーバーが再起動されますので、再度レシーバーに接続してください。

初期状態に戻す

工場出荷時の状態に戻します。
「適用」をクリックするとレシーバーが再起動されますので、再度レシーバーに接続してください。

ファームウェア更新

現在の設定を保存したり、ファームウェアの更新を行います。

システム設定を保存する場合

「エクスポート」をクリックすると現在のシステム設定を保存することができます。
システム設定を読み込む場合は「ファイルを選択」をクリックして、保存されているシステム設定ファイルを選択してください。
「インポート」をクリックすると設定が読み込まれます。

ファームウェアを更新する場合

ファームウェアを更新する場合は、あらかじめ弊社ホームページから更新用のファームウェアをダウンロードしてください。
「ファイルを選択」をクリックして、ダウンロードしたファームウェアファイルを選択します。
「アップグレード」をクリックするとファームウェアの更新が開始されます。

システム設定のインポートおよびファームウェアのアップグレード行った場合は、レシーバーが再起動されますので再度レシーバーに接続してください。

USB トークンを作成する (Windows のみ)

付属の USB トークンには WIPS2 起動ソフトウェアの他に下記のソフトウェアやデータが保存されています。USB トークンの作成機能では WIPS2 起動ソフトウェアのみコピーされ、WIPS2 起動ソフトウェア以外のソフトウェアやデータはコピーされませんのでご注意ください。

USB トークンに収録されているデータ一覧

- Windows Installer (TWP-1500 Windows Installer)
- MAC Installer (TWP-1500 Mac Installer)
- VAC Driver (For Windows XP Audio Projection)
- VDD Driver (For Windows XP/Vista Virtual Extended Screen)
- USBolP Driver (For USB IWB Bridge)
- Utility
 - ・ PtG Converter (For MobiShow PtG function)
 - ・ SNMP Manager (For SNMP Management)

USB トークンの作成方法

- 1 何も保存されていない USB メモリーをパソコンに接続します。
- 2 パソコン上の操作パネルのメニューをクリックして、USB PnS Token ウィザードを選択します。

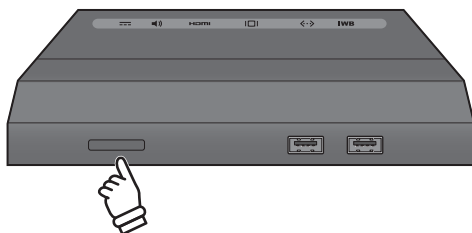
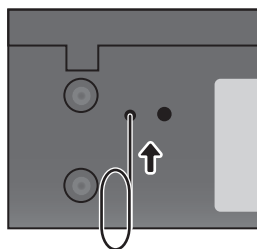
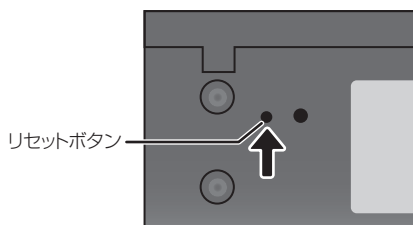


- 3 画面の指示に従って USB メモリーの作成を進めてください。



工場出荷時の状態に戻す

- 1** TWP-1500 の電源が OFF 状態 (AC は挿している状態) で本体底面のリセットボタンを細い棒状のもので長押ししたままで電源ボタンを押します。
- 2** TWP-1500 の電源がオンになります。そのまま 30 秒以上経過したらリセットボタンを離します。
- 3** そのままスタンバイ画面が表示されるまでお待ちください。



↑ リセットボタンを押したまま 電源ボタンを押します ↑

本機器の仕様および外観は、予告なく変更することがあります。
本書の内容は予告なく変更されることがあります。
本書の著作権は株式会社プリンストンにあります。
本書の一部または全部を無断で使用、複製、転載することをお断りします。
本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標、および登録商標です。
本書ではTM ®は明記しておりません。
本機器の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねます。
あらかじめご了承ください。

最新情報の入手方法

プリンストンでは、インターネットのホームページにて最新の製品情報や対応情報を紹介しております。

URL <http://www.princeton.co.jp/>

株式会社プリンストン

Copyright©2014 Princeton Ltd.

2014年8月第1版

